

# 米軍基地問題で開心持つて見て

## 玉城知事演説



18日、国連人権理事会で開會する玉城知事

沖縄県の玉城デニー知事は18日（日本時間19日）、スイス・ジュネーブの国連欧洲本部で開かれている国連人権理事会在に出席し、在日米軍基地が沖縄に集中している現状や、日本周辺の緊張を高める軍事力増強への懸念について訴えた。米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画についても、反対の民意が顧みられていないと批判した。

事は18日（日本時間19日）、スイス・ジュネーブの国連欧洲本部で開かれている国連人権理事会在に出席し、在日米軍基地が沖縄に集中している現状や、日本周辺の緊張を高める軍事力増強への懸念について訴えた。米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画についても、反対の民意が顧みられていないと批判した。

承認するか否かの判断を迫られている。理事会での発言は、辺野古移設や民主主義という普遍的な問題は「人権や民主主義」として国際社会に訴える狙いがある。

玉城氏は18日、本会議場に並ぶ各國の代表団に「米軍基地が集中し、平和が脅かされ、意定決定の平等な参加が阻害されている沖縄の状況を世界中から関心を持ってください」と発言。沖

縄の現状について「日本全体の国土面積の0・6%しかない沖縄には、在日米軍基地の約7割が集中している」と説明した。7割超が埋め立て反対した19年の県民投票にも触れ、「民主主義の手続きにより明確に埋め立て反対という民意が示された」と指摘した。「軍事力の増強は日本の周辺地域の緊張を高めることが懸念されるため、沖縄県民の平和を希求す

保障上の必要性に基づいており、いかなる差別的な意図にも基づいていない」と述べた。

一方、玉城氏の演説後には、ジュネーブ国際機関日本政府代表部の担当者が「沖縄における米軍の駐留は、日本の平和と安定を確保する観点から極めて重要な」。米軍の駐留は地政学的理由と安全

もさうに強く承認を求める「指示」を行うとみられる。10月上旬の期限までに県が従わなければ、国が県に代わって承認する「代執行」のための訴訟を高裁に起す可能性がある。

一方、玉城氏は「日本政府が沖縄県民の様々な思いを受け、米国側と協議して進めていた現状であれば、私がここに来る必要はない。なぜ私が来たか。これが今の沖縄における最大の問題だ」と話した。（未完祐二・ジュネーブ、小野大郎）

## 国交相、知事に承認勧告

辺野古移設計画をめぐる国との訴訟で沖縄県の敗訴が確定し、玉城氏は防衛省の設計変更申請を15年の故・翁長雄志前知事以来8年ぶり。

玉城氏は21日まで滞在し、三つの本会議に出席する。沖縄県知事が同理事会で発言するのは20